

自立活動だより(職員)

秋田県立聴覚支援学校
自立活動部
令和5年8月2日発行

補聴援助システム利用に関する取組について

自分のきこえの程度やコミュニケーション方法を人に伝えたり、様々な手段を活用したり、相手に依頼したりする力が必要になります。今回は補聴援助システム「ロジャー」の利用に関する高等部での取組を紹介します。

補聴援助システムとは

話し手が使用する「送信機（ワイヤレスマイクロホン）」と、聞き手が使用する「受信機」で構成されているシステムです。周囲の雑音をできるだけ排除するとともに、反響音を避けてクリアに聞こえるようにします。種類はさまざまですが、学校では集団補聴援助システムとしての赤外線補聴システムや磁気ループの使用とあわせて、実態に応じてフォナックの補聴援助システム「ロジャー」の利用をするお子さんも多いです。



フォナック HP より引用

校外でのロジャー利用体験について

専攻科1年生（両耳補聴器装用）の場合

利用場面	・会社見学の際…室内で会社について説明していただいたとき、 卓上にロジャーを置いて利用した。
利用の意図	・実際に用いることで、ロジャーを効果的に使う場面を知り、就職試験や入社などの際にロジャーについて具体的に説明できるようになってほしい。
生徒の反応	・普段の補聴器では聞き取りづらい、女性の声でも聞き取ることができた。 ・広い室内でも、集音して声が聞き取りやすかった。
ロジャー以外の機器等の利用	・iPad ・フリーボードを用いて筆談

学校では赤外線補聴システムや静かな環境が用意されていますが、社会の中では機器や環境が整っていないことがほとんどです。将来を見据えたロジャーの活用を通して、自己理解、障害認識を深めていくことも大切です。中学部でも、生徒集会での活用のほか、居住地校交流の際にも活用を予定しています。生徒集会では、生徒から教師に対して、「送信機をもっと近づけて話してほしい」と依頼する場面も見られました。そのように依頼できる力を育てていきたいです。

*本校では、3台のロジャーシステム（送信機・受信機）を所有しており、必要に応じて貸し出しが可能です。自立活動部のロッカーの前に貸し出し簿が掲示されていますので記載してください。